

「2015年度スーパーコンピュータ・システム利用成果報告」作成にあたって

国立研究開発法人理化学研究所
情報基盤センター長 姫野龍太郎

2015年度は理化学研究所（以下、「理研」）のスーパーコンピュータ・システムである HOKUSAI システムの第1期システムである GreatWave（以下、「HGW」）の運用開始初年度であり、その演算ピーク性能を先代 RICC(RIKEN Integrated Cluster of Clusters)よりも10倍向上させましたが、HGW システムの主計算資源である MPC (FX-100) は、本運用開始直後の早い段階から90%以上の高い利用率となっています。課題採択において不採択にはなるべくならない方向での採択を行ったことで、多くの課題を受け付けたため、ジョブの待ち時間が長時間におよぶこともあり、利用者の皆様に御迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。

HGW システムの利用に関しては、これまでどおり全計算資源の1%以上の利用を希望する研究課題は「スーパーコンピュータ課題審査委員会」による審査を受け、承認された計算時間の範囲で利用されています。2015年度に課題審査を受けたのは39課題です。しかし、希望する計算時間の積算値が、提供可能な計算時間の250%を超える状況となり、簡易課題を含めてかなり混雑した状況となりました。2016年度から一般課題の審査を厳格に審査すると共に、申請上限を設けることで、ジョブの待ち時間状況の改善を見込んでおります。

2011年度からサービスを開始していたデータ・リポジトリ・サービスは、今までの運用実績を鑑み、HGW システムへのハードウェア更新にあたって、利用方法や申請方法などを一部改訂し、新サービス「データ預かりサービス」として新たにサービス開始した。本サービスは、HGW システムで装備している大容量データを保管するためのテープ・アーカイブ装置をスーパーコンピュータ・システムの利用者ではない方でも利用できるようにするサービスです。

本報告は、HGW システムの説明と利用・運用状況に関する報告事項、利用者から提出いただいた利用・成果報告書と参考文献という構成としています。報告書作成にあたって、HGW システムでの研究成果であることをより正確に把握するため、利用者の皆さんには、研究成果発表を行う際にHGW システムを利用した旨を記載することや、利用報告書と成果リストの提出を利用義務として御願ひしています。

情報基盤センターでは、毎年度毎に提出いただいた利用報告書と成果リストを報告として編集・Web公開し、理研のスーパーコンピュータ・システムを利用して研究成果を創出している利用者の皆さんのアクティビティを広く公開しています。

2015年 3月